

研究に関する情報公開

<研究課題名>

後中隔が心房再早期興奮部位かつ心室-心房伝導時間の短い房室結節リエントリー性頻拍の鑑別に関する後視方的探索研究

<研究機関・研究責任者名>

埼玉医科大学国際医療センター 心臓内科 講師 森 仁

<研究期間>

承認日 ~ 令和 7 (西暦 2025) 年 3月 31日

<対象となる方>

2018年4月1日～2024年12月31日の期間に、後中隔が心房再早期興奮部位かつ心室-心房伝導時間の短い房室結節リエントリー性頻拍に、心臓電気生理学的検査およびカテーテルアブレーションを施行した方。

<研究の目的>

房室結節リエントリー性頻拍 (AVNRT) は、心房と心室を電気的につなぐ房室結節内でリエントリーが形成される頻拍です。房室結節内には、前中隔に存在する速伝導路 (fast pathway) と後中隔に存在する遅伝導路 (slow pathway) があり、これらの伝導路が AVNRT の回路を形成しています。AVNRT のカテーテルアブレーションの急性期成功率は 95%以上の高い成功率が報告されており、標準的な治療になっています。

最も頻度が高い AVNRT は順行性伝導が slow pathway で、逆行性伝導が fast pathway である slow-fast AVNRT です。slow-fast AVNRT では、心房最早期興奮部位は前中隔になるのが一般的ですが、slow-fast AVNRT の約 11%で後中隔に心房再早期興奮を認める場合があるとの報告があります。一方で順行性伝導が slow pathway で、逆行性伝導も slow pathway でリエントリーが形成される slow-slow AVNRT も存在し、このような症例では逆行性伝導が slow pathway であるため、後中隔が心房再早期興奮部位になります。

これまで、後中隔が心房最早期興奮部位で心室-心房伝導時間の短い AVNRT の症例では、房室ブロックのリスクを考慮して順行性の slow pathway と想定される部位をアブレーションのターゲットにしてきました。しかし、slow-slow AVNRT と slow-fast AVNRT の鑑別が可能になれば、slow-slow AVNRT の症例では、心房最早期興奮部位を治療のターゲットにすることが可能となります。そこで、後中隔が心房最早期興奮部位で心室-心房伝導時間の短い AVNRT のうち slow-fast AVNRT と診断した症例と、slow-slow AVNRT と診断した症例の電気生理学的特徴、解剖学的特徴を後視方的探索し、検討することを目的としています。

<研究の方法>

後中隔が心房最早期興奮部位で心室-心房伝導時間の短い房室結節リエントリー性頻拍のカテーテルアブレーションを受けた患者さんの情報をカルテから遡って取得し、探索的に解析を行う後視方的観察研究です。

<研究に用いる試料・情報の項目>

後中隔が心房最早期興奮部位で心室-心房伝導時間の短い房室結節リエントリー性頻拍に対して、日本大学医学部附属板橋病院循環器内科および研究実施機関でカテーテルアブレーション施行した方で、心電図や心臓電気生理学的検査およびアブレーション中の心内心電図、3D mapping system のデータ、外来検査データ、診療記録等を主に使用します。

<研究を実施する機関組織>

埼玉医科大学国際医療センター 心臓内科・講師 森 仁
日本赤十字社 さいたま赤十字病院 循環器内科・部長 稲葉 理
順天堂大学医学部附属順天堂医院 循環器内科・助教 黒田 俊介

<お問い合わせ窓口>

研究代表者 循環器内科 永嶋孝一
〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町 30-1 日本大学医学部附属板橋病院循環器内科
03-3972-8111 (内線) 8142

各研究機関における相談等窓口

<埼玉医科大学国際医療センター>

研究責任者 心臓内科 森仁
〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1
042-984-4111

<日本赤十字社 さいたま赤十字病院>

研究責任者 循環器内科 稲葉理
〒330-8553 埼玉県さいたま市中央区新都心 1-5
048-852-1111

<順天堂大学医学部附属順天堂医院>

研究責任者 循環器内科 黒田俊介
〒113-8431 東京都文京区本郷 3-1-3
03-3813-3111